

学校法人 北海道科学大学

# 2024年度 事業計画書

2024年4月1日～2025年3月31日



## 経営理念

新しい価値を創造する実学系教育を通じ地域社会からの期待に応え、  
一人ひとりが輝く、北海道の発展に寄与する人材を育成する。

## 事業方針

学校法人北海道科学大学は、今年度を大きな節目と捉えています。その核となる法人創立100周年は、本法人に関わるすべての皆様と記念行事・イベントなどを通じて感謝・感激・感動を共有すべく、教職員一丸となってあらゆる取組を推進する一年にしたいと考えています。また同時に、100周年ブランドビジョン『基盤能力と専門性を併せ持つ人材を育成し、地域とともに発展・成長する北海道No.1の実学系総合大学を実現します。』を達成する一年でもあり、この達成に向けて進めて参りました第2期中期事業計画も最終年度を迎えます。

大詰めを迎える第2期中期事業計画として、大学では全学生が受講する新・基盤能力教育プログラム「HUSスタンダード」がスタートします。また、高校では、系列大学へ進学する場合、3年次後期に大学の科目を早期履修し、高大で単位を相互認定することができる「コンカレントプログラム」がスタートします。高大が同じキャンパスに位置するメリットを最大限活かし、より充実した高大一体教育を展開するとともに、本法人スローガンの「+Professional」な人材育成のさらなる推進を行います。

また、地域に根ざし地域とともに発展・成長する学校法人として、地域貢献活動の強化及び新キャンパス構想の検討も踏まえ、大学に新センター「地域共育センター」を設立し、地域社会の発展・成長に貢献する人材育成を進めて参ります。

本法人はこの節目の一年にさらなる飛躍を目指し、改革の歩みを止めず前に進んでいく所存であります。また、100周年を迎えたその先も、社会環境の変化に柔軟に対応し、地域社会とともに発展・成長していく学校法人を目指し続けます。

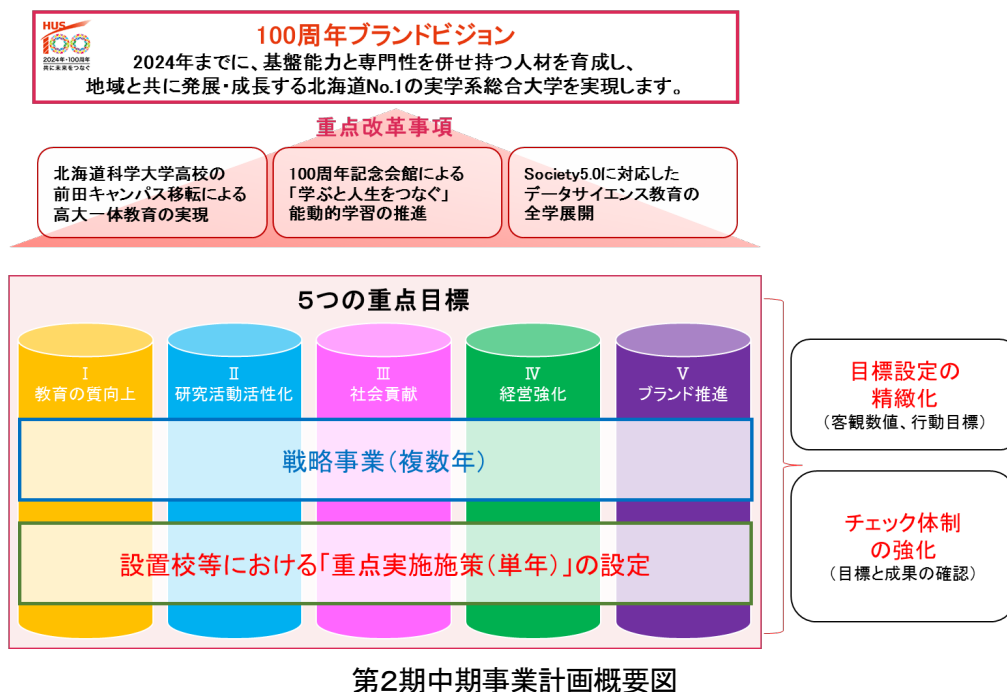
## 目次

1.中期事業計画及び事業計画	3
(1)第2期中期事業計画(2020-2024)について	3
(2)第2期中期事業計画(2020-2024)における5つの重点目標	4
(3)ブランドビジョン実現に向けた数値目標	5
(4)2024年度に取り組む主な事業(戦略事業及び重点実施施策)	5
【I. 教育の質向上】	6
【II. 研究活動活性化】	11
【III. 社会貢献】	13
【IV. 経営強化】	15
【V. ブランド推進】	17
2.施設整備計画	19
3.設備整備計画	20
4.学生生徒見込数	21
5.役員・評議員・教職員等の概要	24

# 1. 中期事業計画及び事業計画

## (1) 第2期中期事業計画(2020-2024)について

法人創立100周年である2024年度に向けたブランドビジョンを実現するため、2020年度から5か年にわたる第2期中期事業計画を策定しました。



100周年に向けた重点改革事項として、以下の事業を実施します。

- ・高校の前田キャンパス移転による高大一体教育の実現
- ・100周年記念会館による「学ぶと人生をつなぐ」能動的学習の推進
- ・Society5.0に対応したデータサイエンス教育の全学展開

上記に加え、法人及び各設置校が一丸となって取り組む「教育の質向上」をはじめとする5つの重点項目及び目標を定めており、2022年度からは5つの重点目標に基づく複数年事業である「戦略事業」に加え、設置校などにおける、第2期中期事業計画の目標に対する現状や課題などを整理し優先的に取り組む「重点実施施策」を策定し、目標設定の精緻化及びチェック体制の強化を行っています。

また、最終年度となる今年度は5か年の振り返りを実施し、次なる第3期中期事業計画(2025-2029)へ引き継いで参ります。

## (2)第2期中期事業計画(2020-2024)における5つの重点目標

### 【Ⅰ. 教育の質向上】

大学にあっては、建学の精神に謳われる「科学的市民の育成」により、複雑多様化、グローバル化が進展し、予測不可能な時代にあっても主体的に社会を支える人材を輩出します。

このため、「プロフェッショナル教育」の理念に基づいて、学修者本位の教育への転換を推進します。

高校にあっては、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力など」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性など」の涵養の実現により、アドミッションやその後の高等教育に生かせる資質能力の育成を目標とします。

### 【Ⅱ. 研究活動活性化】

大学の特色を生かした、医・薬・工連携による学際的・学融合的研究の推進によるイノベーションの創出、社会還元を図ります。

### 【Ⅲ. 社会貢献】

地域社会の核として、産業界や地方公共団体とともに、北海道の高等教育の将来像や具体的な連携・交流方策について議論する「地域連携プラットフォーム」の構築を目指します。

### 【Ⅳ. 経営強化】

キャンパス再整備計画(第1期)の成果としての前田キャンパス移転、大学統合によるスケールメリット(共通の教育研究組織、事務部門の簡素・合理化など)を発揮し、運営コストを削減するとともに、限りある経営資源をⅠ.～Ⅲ.の重点領域に再配分及び集中的に投資します。

### 【Ⅴ. ブランド推進】

信条として掲げた「+Professional」、「地域共育力」の旗印の下、100周年記念事業、ブランド推進活動、特色ある教育研究活動及び地域貢献活動などの個別の取組を一貫したストーリーとして、以下のコンセプトに位置づけ、分かりやすく社会に発信し、認知度の向上を図ります。

- ・地域活性化に向けた取組
- ・北海道の地域課題に対応、地域資源を生かした取組
- ・本法人の歴史(レガシー)の創出・承継に向けた取組

### (3)ブランドビジョン実現に向けた数値目標

法人創立100周年である2024年度に向けたブランドビジョンを実現するため、第2期中期事業計画では以下の数値目標を定めています。

#### 設置校ごとの数値目標

設置校	項目	目標値
北海道科学大学	入学定員充足率	学部:100%
		大学院:70%
	実質倍率(学部延べ)※1	2.2倍
	志願者総数	2,500名
	中退率	2.8%以下
	学生満足度	80%以上
	1年以内離職率	10%以下
北海道科学大学高等学校	入学定員充足率	100%
	国公立大・難関私大進学率※2	10%
	系列大学進学率※2	33%
北海道自動車学校	入校者数	1,600名

※1 一般選抜、大学入試共通テスト計

※2 就職希望者除く

### (4)2024年度に取り組む主な事業(戦略事業及び重点実施施策)

#### 件数(2024年度)

重点目標	戦略事業	重点実施施策	合計
I. 教育の質向上	12	4	16
II. 研究活動活性化	1	3	4
III. 社会貢献	3	3	6
IV. 経営強化	3	4	7
V. ブランド推進	2	3	5
合計	21	17	38

## 【I. 教育の質向上】

### 重点目標

大学では、基本理念「科学的市民の育成」、「プロフェッショナル教育の推進」を引き続き堅持し、学修者本位の教育への転換をより一層推進します。

高校にあつては、新学習指導要領に準拠した教育の展開により、アドミッションやその後の高等教育に生かせる資質能力の育成を目標とします。



HUSスタンダード新聞広告

### <戦略事業>

北海道科学大学(8件)

1	<b>工学部による先進的データサイエンス教育の推進</b> 【工学部】
---	--

〔目標指標・数値〕「数理・データサイエンス・AI」基礎共通科目創設と全学科への講義展開、IoT・AI・データサイエンス環境を構築する講義の整備と実施

Society5.0に対応し、地域社会の中心で活躍する人材育成のため、充実した「数理・データサイエンス・AI」教育を受けることができる環境を提供し、全ての学生が「数理・データサイエンス・AI」の素養を身につけます。また、第4次産業革命、Society5.0の中心技術である人工知能やセンサーからのデータ取得、時系列解析技術について実践を通して総合的に学ぶ講義(実験)環境の整備を行い、これらの技術を修得し社会に貢献できる学生を育成します。

2	<b>工学系教育環境の充実</b> 【工学部】
---	----------------------------

〔目標指標・数値〕AI及びビッグデータに関する教育の実行(情報工学科)

BIMを活用した効果的な建築教育環境の整備(建築学科)

CIM時代に対応した特別プログラムの次期カリキュラムでの運用(都市環境学科)

情報工学科では「最新の知識・技術を身につける科目群」における実験環境整備及び教材開発を目的としたPBL形式(課題解決型学習)で学ぶことのできる授業を実施します。建築学科では必要機器を配置し、学生のBIM(Building Information Modeling)による建築設計などの提案表現とエスキースに適した環境を整備します。また、都市環境学科ではCIM時代に対応した特別プログラムを展開し、次期カリキュラム改定時に正課の授業科目として取り入れることを目標に、講義・演習方法の検討を行います。

3	<b>電気自動車に関わる電気電子技術教育の推進</b> <b>【工学部 電気電子工学科】</b>
---	---

〔目標指標・数値〕受講生に対する自動車業界への就職斡旋(内定者7名)

環境問題対策として、電気電子系技術者のニーズが高まる自動車業界に対応するため、電気自動車に関わる電気電子技術の教育環境を早期に整備し、自動車業界で活躍する人材を育成します。

4	<b>クリエイティブ・デザイン教育用実習室の整備</b> <b>【未来デザイン学部 メディアデザイン学科】</b>
---	--

〔目標指標・数値〕実習室の整備及び授業実施

クリエイティブ・デザイン系教育の重要な部分を占めるアナログな作品を制作する実習室がない現状を踏まえ、7216講義室をクリエイティブ・デザイン教育用の実習室として整備します。ベーシックデザイン I、II (1年前後期)の授業で使用するほか、授業時間外での自由な創作活動場所として活用します。また、オープンキャンパスや高大連携、地域連携などの造形ワークショップ形式での制作場所としての活用も検討します。

5	<b>教育系基幹システムの更新</b> <b>【学生支援センター、就職支援センター、入試広報センター】</b>
---	--

〔目標指標・数値〕入試・教務・就職データの一元化、全システムの稼働

教育系基幹システムの導入により、学生の入試、学生支援、就職の情報を一元管理するとともに、出欠状況及び成績表を保護者が確認可能となり、大学と双方から学生を見守る環境を構築することで「教育・学修の質」、「学生サービス」の向上へ繋がります。

6	<b>授業内外での学習支援、修学支援の充実</b> <b>【学生支援センター】</b>
---	--

〔目標指標・数値〕正課外学修サポートでのチュードント・アシスタント(SA)希望調査の実施

需要に対応した制度再設計、2023年度からの適用開始

学力差拡大に対応し「学生を主体とした教育」の充実のため、正課における授業指導支援の強化と正課外における学習支援の強化を行います。

7	<b>新入生の図書館利用による能動的学習の促進</b> <b>【学術情報センター】</b>
---	--

〔目標指標・数値〕初年次教育科目における図書館利用による能動的学習を全学科で実施

図書館を活用し、大学での学びに必要な基本的スキルを身につけ、能動的に学修する力の養成を目的に、各学科で図書館の施設・資料を用いて回答を導き出す課題を与え、学修する取組を行います。

8	<b>アセスメント・ポリシーの実質化</b> <b>【自己点検 IR 委員会】</b>
---	--

〔目標指標・数値〕アセスメント・ポリシーの実質化に向けた自律的な点検改善サイクルの確立

2018年度に策定した学修成果の評価に関する方針であるアセスメント・ポリシーの実質化に向けて、学科(教育課程)、授業科目、学生それぞれの対象レベルに応じた評価手段を確立し、学科における自律的な点検改善サイクルが回る環境を構築します。



## 北海道科学大学高等学校(2件)

1	<b>生徒の学力及び進路結果の向上</b>
---	-----------------------

〔目標指標・数値〕3年間のコース別指導体制・計画の策定及び取組の可視化を図る中長期的な  
教員研修計画の立案及び実施

特別進学コースを中核とした3年間の計画的な指導体制(進学講習・進学イベントなど)と計画を策定し、随時実施します。また、実力テスト・模試の分析を進路指導部・業者・学年会合同で行い、継続的な現状分析から計画的な指導を行います。

教員の資質向上のため、年間計画に基づく教員研修と新任研修を実施し、道内外の高大先進校視察や人事交流を通して、ミドルリーダーとなる教員育成と資質向上を図ります。

2	<b>移転を機会とする高大連携の一層の強化</b>
---	---------------------------

〔目標指標・数値〕HUS LINKS(高大が一体となって行う生徒サポートプログラムの総称)の  
個別取組内容の充実と外部発信の強化

HUS LINKSの生徒サポートプログラムは、高大接続プロジェクト・総合的な探究の時間に関すること・短期留学・部活動・コンカレントプログラムなどにおいて、これまでの蓄積を発展させ、同じキャンパスである利点を活かし、さらなる充実を図ります。また、その取組をSNSなども活用、発信(年50回以上)し、プレスリリースを戦略的に行い、年間6回以上の報道・記事化を目指します。

## 北海道自動車学校(2件)

1	<b>教習指導心得プロジェクト</b>
---	---------------------

〔目標指標・数値〕教習指導心得プロジェクトにおける教習生アンケート回答(良)割合:95%

教習生が運転技術を修得しやすい教習指導方法や内容を検討し、自動車学校として指導方針を前面に打ち出すことにより、指導員等職員全体の業務に対する意識の向上と方向性を定め、教習指導及び教育内容の強化を行います。

2	<b>学科教習改善</b>
---	---------------

〔目標指標・数値〕若年層の向けの学科教習(DONDONドライブ)を導入し、学科教習において継続使用

若年層に向けた学科教習の改善及び他校との差別化を目指し、体験型学科教習教材「DONDONドライブ」を導入し、道路交通法などの理解力向上を図ります。

## <重点実施施策>

学校法人北海道科学大学(1件)

1	<b>高大接続プログラム(HUS LINKS)の発展と進学者数向上</b> <b>【入試広報センター、北海道科学大学高等学校】</b>
---	--

〔目標指標・数値〕高校2年生のスクーリング参加者 150名

※うち、工学部と情報科学部希望は45名(2023年度実績である39名から6名増)

高校から大学への内部進学者数の増加を図るため、本プログラム2年目となる2024年度は実施プログラムの改善を行います。特に工学部、情報科学部への希望者増加につなげるため、一層、生徒への訴求効果の高い高大連携事業に取り組みます。

北海道科学大学(3件)

1	<b>新たな教育プログラムの実施</b> <b>【学生支援センター】</b>
---	---

〔目標指標・数値〕新たな教育プログラムを円滑に実施し、課題・問題が発生した場合は各部局と連携して解決にあたる

2024年度から始まる新たな教育プログラム(HUSスタンダード、コンカレントプログラム、リメディアル教育など)について、教育イノベーション推進機構や内部の各委員会で設計・準備を行っています。全く新しい取組となりますので、学生支援センターが実行部隊として関わり、機構・各委員会・各学科と連携して改善サイクルを短期的に回し、それぞれの教育プログラムを円滑に実施します。あわせて、実施結果を分析し、次期中期事業計画に反映します。

2	<b>低学年次からのキャリア支援の充実「HUS キャリアパスウェイ(仮称)」</b> <b>【就職支援センター】</b>
---	---

〔目標指標・数値〕キャリア形成 I と連携するキャリア支援方法の設計を行う

2024年度より「キャリア形成 I」を開講することに伴い、低学年次から学生自身が就職活動を意識しステップアップができる取組を構築します。就職活動に関わる全体像の把握、自己理解の軌跡やアセスメントの結果、セミナーなどの活動記録を蓄積し振り返ることができるようキャリア支援方法を設計します。

## 〔目標指標・数値〕・プレスリリース

- ・広報媒体(動画・紙・特設ページのいずれか)の制作
- ・OCでの説明会実施
- ・高校教員対象説明会の実施
- ・FDを活用した学内周知活動

2025年度入試から新しい総合型選抜がスタートし、一般選抜(後期)においては記述式総合問題や面接試験を伴う「総合評価型選抜」を導入します。また、高校学習指導要領改訂に伴い、新科目「情報」を一般選抜(前期)の試験科目に導入するなど、大幅な入試改革に対して入試広報センターが一体となって対応し、選抜試験の安定的運営と社会的認知を広める広報活動を推進します。

## 【Ⅱ. 研究活動活性化】

### 重点目標

大学の特色を生かした、医・薬・工連携による学際的・学融合的研究の推進によるイノベーションの創出、社会還元を図ります。



ビジネスEXPO「第37回 北海道 技術・ビジネス交流会」出展

### <戦略事業>

北海道科学大学(1件)

1	<b>新研究所(CRILS)の立ち上げと研究成果の永続的な創出・発信 【研究推進社会実装センター(※2024年度より名称変更)】</b>
---	--

〔目標指標・数値〕学会発表:年5回 論文掲載:年5報

2020年度に開設した北の大地ライフサイエンス創生研究所(CRILS)において、地域及び国民の健康・福祉の増進に寄与することを目的に、研究成果を確実に創出・発信し続けます。

### <重点実施施策>

北海道科学大学(3件)

1	<b>研究及び社会実装を支援する制度の構築 【研究推進社会実装センター】</b>
---	--

〔目標指標・数値〕スタートアップにおける各種規程を2024年度中に制定・改正

研究支援・社会実装支援制度を構築し、本学の研究活動活性化を目指します。

- ・スタートアップにおける各種規程を関係部署と協働し、制定及び改正します。
- ・バイアウト制度、クロスアポイントメント制度、サバティカル研修制度など研究支援に関する規程について、優先的かつ実現可能な制度の制定を目指します。

2	<b>連携協定先との共同研究の創出 【研究推進社会実装センター】</b>
---	--

〔目標指標・数値〕契約研究実施1件以上

現在、連携協定を締結している各自治体とともに、公開講座の開催やまちづくりへの協力、教員派遣などを行っています。今年度は、さらに地域との連携を深めるために、各自治体が抱える地域課題を抽出し、本学において対応可能な課題の解決に向けた「共同研究」を実施します。

## 〔目標指標・数値〕共用施設・機器の利用10件

研究活動活性化のため、学内の施設・機器の共用を推進します。既に共用化しているR2棟の設備のほか、各学科所有の研究用機器の共用を推進し、学内施設・設備を有効活用します。また、スタートアップ企業に対して施設の貸与を行い、施設の有効活用とともに研究活動の活性化につなげます。

### 【Ⅲ. 社会貢献】

#### 重点目標

地域社会の核として、産業界や地方公共団体とともに、北海道の高等教育の将来像や具体的な連携・交流方策について議論する「地域連携プラットフォーム」の構築を目指します。



2023年度まちかどキャンパス

#### <戦略事業>

北海道科学大学(3件)

1	<b>地域医療への貢献を目指した道内地方都市における実務実習の推進 【薬学部実務実習委員会】</b>
---	--

〔目標指標・数値〕プログラムを受けた学生の30%以上が地域医療に関わる

地域課題の解決につながる企画を年2件開催

地域医療を支えることを目的に、北海道内の地方都市においてモデルケースとなるような地域医療実習のプログラムを施設と共同で作成します。学生の地域医療に関する理解を深め、地域医療に従事する薬剤師を増やすとともに、就職先が薬局に偏在している現状を改善します。さらに、学生が地域そのものを知り、地域住民との交流機会も創出した上で、大学と地域が共同して地域課題の解決につながる事業を企画・開催します。

2	<b>看護実践・教育・研究に関するユニフィケーション事業 【保健医療学部 看護学科】</b>
---	--

〔目標指標・数値〕本学教員による教育・研修会の定期的開催年2回、臨床研修

看護学科と複数の医療・福祉施設が看護実践・教育・研究において連携・協働し、看護ケア及び看護教育の質の向上を図ることを目的に、教育・研修会の実施や臨床看護師の研究支援などを行います。

3	<b>「自由研究といえば北科大」を目指す ～科学やものづくりの楽しさを伝え、未来の科学者を育てるイベント特化事業～ 【研究推進社会実装センター】</b>
---	--

〔目標指標・数値〕大学で実施するイベントにおける5年間の参加者計700名

研究・科学のおもしろさを伝えるため、これまで継続的に実施してきた日本学術振興会『ひらめき☆ときめきサイエンス』事業に加え、小学生を対象とした未来の科学者を育てるイベントを実施します。

<重点実施施策>

学校法人北海道科学大学(1件)

1	<b>てっぼく・ひろばプロジェクトの立ち上げと推進 【政策室】</b>
---	---

〔目標指標・数値〕プロジェクトの構築と定期的なマネジメントミーティングの開催、  
運営協議会・常任理事会などへの定期的な進捗報告の実施

2027年度の新キャンパスの開設に向けて、部署横断型のプロジェクトを設置します。法人一体となり、「てっぼく・ひろば」への新キャンパス開設・学部設置に向けた推進体制を強化します。

北海道科学大学(2件)

1	<b>各連携協定先との協働事業の推進 【地域共育センター(※2024年度より新設)】</b>
---	--

〔目標指標・数値〕2023年度連携協定締結先との連携事業を1件以上実施

2023年度に連携協定を締結した北海道文教大学、札幌大学、はこだて未来大学、明星中学校・高等学校と、過年度から連携事業が活発ではない連携先との連携事業の検討及び実施を行います。

2	<b>生涯研修業務の見直しとアウトソーシングへの移行 【薬剤師生涯学習センター】</b>
---	--

〔目標指標・数値〕業務体制の構築をメインとし、アウトソーシングについては可能であれば実施計画を策定し2025年度から実施

リカレント教育を今後全学的に展開するにあたり、新体制構築の準備として業務内容の整理や業務分担の明確化などを行い、円滑かつ効率的に業務を進めることを可能にする体制を検討します。また、より安定的な運営体制を目指すべく、アウトソーシングの活用可能性も視野に入れ検討を行います。

#### 【IV. 経営強化】

##### 重点目標

キャンパス再整備計画(第1期)の成果としての前田キャンパス移転、大学統合によるスケールメリット(共通の教育研究組織、事務部門の簡素・合理化など)を発揮し、運営コストを削減するとともに、限りある経営資源をⅠ.～Ⅲ.の重点領域に再配分及び集中的に投資します。



北海道科学大学高等学校の前田キャンパス新校舎

##### <戦略事業>

学校法人北海道科学大学(1件)

1	<b>高大一体となった広報活動の充実 【事務局 入試・地域連携部、北海道科学大学高等学校】</b>
---	---

〔目標指標・数値〕新聞100件以上、テレビ30件以上の掲載

日経BP調査における北科大の認知度80%以上  
北海道科学大学高等学校移転の社会認知向上と定員管理  
高大連携、イベントなどでの魅力を発信

高校の移転により、今まで以上に生徒・学生及び教職員の活動を情報収集するとともに、全てのステークホルダーへのブランドイメージの浸透及びステークホルダーごとの広報戦略について検討し、多くの情報をメディア(大学プレスセンター含む)へプレスリリースします。

認知度の向上については、キービジュアルを活用した広報展開をするとともに高校移転に伴う高大一体教育の広報、創立100年周年を迎える本法人が北海道への貢献を行う姿を広報します。

北海道科学大学(1件)

1	<b>前田キャンパスネットワークの環境維持 【学術情報センター】</b>
---	--

〔目標指標・数値〕2024年8月一斉休業期間での機器更新を実施

2001年度より立ち上げた「モバイルキャンパス構想」に基づき、安定したネットワーク環境を提供します。講義・実習・演習を含めた、あらゆる教育・研究活動及び事務処理を円滑に進めるために実施します。

北海道自動車学校(1件)

1	<b>送迎バス位置情報システム導入</b>
---	-----------------------

〔目標指標・数値〕送迎バス位置情報システム導入、継続使用

スマートフォンなどで送迎バス運行状況を確認することできる送迎バス位置情報システムを導入し、運転手及び職員の連絡などにかかる業務の軽減、教習生へのサービス向上を図ります。



## <重点実施施策>

### 学校法人北海道科学大学(3件)

1	<b>業務構造改革の推進 【政策室】</b>
---	----------------------------

〔目標指標・数値〕2025年度以降の推進体制構築及び外部パートナーの選定の完了

決裁・承認の改革推進、決裁行為の電子化推進、システム及びアウトソーシングの整理統合、学生アルバイト活用体制の構築などといった業務の見直しを継続的に推進できる仕組みを検討します。

2	<b>会議の在り方の見直し 【政策室、事務局 総務部】</b>
---	-------------------------------------

〔目標指標・数値〕会議運営指針の策定(実施できるものから、年度内に変更)

開催会議の必要性、参加者の必要性の検証、運営方法の改善を現状課題分析から行うことで、教職員が業務へエフォートを割ける環境改善を行います。

3	<b>中長期施設設備更新計画(2025～2034 年度)の完成 【事務局 財務部】</b>
---	---

〔目標指標・数値〕2025～2034年度事業計画一覧を7月末までに(第一次案)提出(経常的な設備更新費用、修繕費は減価償却額の18%前後を5年間平均の目安とする)

第3期中期事業計画策定に先立ち、中長期施設設備更新計画(2025～2034年度)を策定します。高校校舎が完成し前田キャンパスローリング計画は終了しましたが、続いて設備のメンテナンスなどのランニングコストや設備改修費用の中長期計画が必要となります。また、中の島利活用や「てっぽく・ひろば」の校舎建設などの新規事業のイニシャルコストを含めた計画も反映します。

### 北海道科学大学高等学校(1件)

1	<b>着実な財務改善の進捗</b>
---	-------------------

〔目標指標・数値〕奨学費削減に向けた学力特待の改善

#### DXハイスクール、三菱みらい育成財団助成事業の補助金活用

経常収支の一層の改善に向け、2024年度入試の結果を分析し奨学費削減に向けた特待生制度のさらなる改善の検討を行います。また、積極的に補助金(DXハイスクール、三菱みらい育成財団助成事業など)の獲得を行い、補助金を活用した入学生確保に向けた教育の充実を図ります。

## 【V. ブランド推進】

### 重点目標

信条として掲げた「+Professional」、「地域共育力」の旗印の下、100周年記念事業、ブランド推進活動、特色ある教育研究活動及び地域貢献活動等の個別の取組を一貫したストーリーとして、以下のコンセプトに位置づけ、分かりやすく社会に発信し、認知度の向上を図ります。

- ・地域活性化に向けた取組
- ・北海道の地域課題に対応、地域資源を生かした取組
- ・本法人の歴史(レガシー)の創出・承継に向けた取組



HUSオープニングフェス

### <戦略事業>

北海道科学大学(2件)

1	同窓生との連携強化 【事務局 校友課】
---	------------------------

〔目標指標・数値〕総会参加数増加のための対策の実施、イベント、サービスなどの実施(100周年)

HUS pedia作成に向けた企業への取材25件(前年含)、冊子100冊作成

同窓会総会行事における若年層会員の参加者数減少の改善及び同窓生の本学へのニーズを把握し、学内に周知することを目的に実施した同窓生対象のアンケート結果をもとに、関係部署と施策の検討(課題調査や分析)を行います。

また、同窓生間の交流イベント実施(異業種間交流会など)やそれらの情報を発信するなどのサービスを行うことで同窓会活動の活性化を図ります。

2	ホームページ全面リニューアルによる大学知名度及び利便性の向上 【入試広報センター】
---	--

〔目標指標・数値〕ホームページ稼働確認及び調整、アクセス解析

入試広報センターを中心に、最新のフレームを使用したビジュアル性、操作性が高いホームページを制作します。また、導入後も各ページを検証できる仕掛け、ランニングコストの軽減、運用負担の軽減、時代背景に柔軟に対応できるようなシステムとします。

## <重点実施施策>

学校法人北海道科学大学(2件)

1	<b>100周年記念事業の推進 【100周年記念事業実行委員会】</b>
---	--

〔目標指標・数値〕8月10日開催100周年記念セレモニー参加者数1500名

8月10日開催予定の100周年記念セレモニーを中核として、年間を通して100周年関連イベントを開催します。また、イベントだけではなく日々の業務の中でステークホルダーに対して、100周年に対する理解・共感・本法人に対する期待を醸成する仕掛けを各部署が主体的に考え、実行する1年とします。これらの施策を実行する中で、寄付募集も併せて行い寄付者の裾野を広げることで寄付募集強化を図っていきます。

2	<b>法人創立 100周年記念の広報強化 【広報委員会】</b>
---	--------------------------------------

〔目標指標・数値〕プレスリリース50件発信

**四季のイベントは昨年度動員数を上回る**

一般の方に法人創立100周年を認識してもらう広告を行います。高校・大学を含めた広報を検討し、マスコミには取材してもらえるようにプレスリリースを発信します。また、四季のイベントを地域住民に広く周知し、100周年を地域で盛り上げる企画を策定し実施します。

北海道科学大学(1件)

1	<b>情報科学部新設広報によるブランディング推進 【入試広報センター、広報委員会】</b>
---	---

〔目標指標・数値〕情報科学部志願者数 1,500名(全選抜・延べ人数)

**(2023年度実績である1,236名の約1.2倍)**

2025年新設予定の情報科学部情報科学科をオープンキャンパス、WEB、SNS、相談会などを駆使し、高校生・保護者・高校教員へ広報し、大学全体及び新学部の志願者数増加につなげます。また、法人広報委員会と連携し、交通広告・新聞広告など、一般広報にも努めます。

## 2.施設整備計画

主な工事計画は、以下のとおりです。

工 事 名	
<学校法人北海道科学大学> ・中の島キャンパス建物解体工事	一式
<北海道科学大学> ・体育館補修工事(屋上防水、外壁補修など) ・G棟照明LED化工事 ・HITプラザ補修工事(屋上防水、ガラス交換など)	一式 一式 一式

### 3.設備整備計画

#### (1)教育研究用機器備品

各設置校における教育研究充実のため、機器の更新及び機械器具を購入します。

購入数量	254点
------	------

主な購入品目は、以下のとおりです。

件 名	
<北海道科学大学> ・自動細胞イメージングシステム ・A棟・B棟無線LAN装置機器更新 ・A棟講義室プロジェクター更新	1点 159点 4点
<北海道科学大学高等学校> ・送風定温恒温器(強制対流方式) ・サーマルサイクラー ・真空乾燥機	1点 1点 1点
<北海道自動車学校> ・新校舎什器一式	1点

#### (2)管理用機器備品

各設置校の機器の更新及び管理用備品を購入します。

購入数量	8点
------	----

#### (3)図書等

各設置校の図書等を以下のとおり購入します。

(冊)

設置校名	図書	学術雑誌	電子ジャーナル	データベース	視聴覚関係
北海道科学大学	950	99	5,690	11	0
北海道科学大学高等学校	250	0	0	0	0

#### (4)車両

<北海道自動車学校>

・教習用自動車リース 10台

## 4. 学生生徒見込数

※2024年度予算編成人数

<北海道科学大学>

(学部)

学部名	学科名	入学定員	収容定員	学生数						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
工学部	機械工学科	92	368	92	92	94	109			387
	情報工学科	90	360	90	84	96	80			350
	電気電子工学科	80	320	80	75	109	100			364
	建築学科	80	320	80	79	100	76			335
	都市環境学科	50	200	50	53	49	42			194
薬学部	薬学科	180	1,080	180	224	187	155	180	177	1,103
保健医療学部	看護学科	90	360	90	94	99	93			376
	理学療法学科	50	200	50	60	60	48			218
	義肢装具学科	30	120	30	42	26	30			128
	臨床工学科	70	280	70	82	82	67			301
	診療放射線学科	50	200	50	54	70	44			218
未来デザイン学部	メディアデザイン学科	80	320	80	74	126	80			360
	人間社会学科	50	200	50	48	55	52			205
計		992	4,328	992	1,061	1,153	976	180	177	4,539

## (大学院)

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	学生数					
				1年	2年	3年	4年	計	
工学研究科	修士課程	機械工学専攻	5	10	5	1			6
		電気電子工学専攻	4	8	4	4			8
		情報工学専攻	4	8	4	2			6
		建築学専攻	4	8	4	4			8
		都市環境学専攻	4	8	4	0			4
	計	21	42	21	11			32	
	博士後期課程	工学専攻	6	18	6	1	3		10
		計	6	18	6	1	3		10
薬学研究科	博士課程	臨床薬学専攻	3	12	3	7	2	2	14
		計	3	12	3	7	2	2	14
保健医療学研究科	修士課程	看護学専攻	5	10	5	11			16
		リハビリテーション科学専攻	4	8	4	3			7
		医療技術学専攻	4	8	4	4			8
		計	13	26	13	18			31
	博士後期課程	保健医療学専攻	3	9	3	2	0		5
		計	3	9	3	2	0		5
計		46	107	46	39	5	2	92	

## (専攻科)

専攻科名	入学定員	収容定員	学生数	
			1年	計
公衆衛生看護学専攻科	8	8	8	8
計	8	8	8	8

<北海道科学大学高等学校>

学科名	入学定員	収容定員	生徒数			
			1年	2年	3年	計
普通科	300	900	300	295	364	959
計	300	900	300	295	364	959

<北海道自動車学校>

科名	種別	教習時間	教習生数
本科 (公安委員会指定)	普通一種	34	1,272
	準中型	41	14
	大型特殊	12	32
	大型二輪	36	28
	普通二輪 (400cc以下)	19	61
	普通二輪限定 (125cc以下)	12	10
計			1,417



## 5.役員・評議員・教職員等の概要

### (1) 役員・評議員 (2024年3月1日現在)

理事・監事・評議員の別	常勤・非常勤の別	定員数	人数	計
理事 (兼評議員)	常勤	10~21	9	14
	非常勤		5	
監事	常勤	2~4	1	2
	非常勤		1	
評議員 (理事含)	常勤	24~48	18	30
	非常勤		12	

### (2) 教職員 ※2024年度予算編成人数(事務職員は部門別配分前)

職種		所属	人数
教育系職員	教員	北海道科学大学	239
		北海道科学大学高等学校	53
		北海道自動車学校	31
	技術員	北海道科学大学	3
		計	326
事務職員(契約職員を含む)	北海道科学大学(政策室、内部監査室を含む)		128
	北海道科学大学高等学校		8
	北海道自動車学校		7
	計		143
合計			469



**2024年・100周年**  

---

**共に未来をつなぐ**